

営農だより 野菜版 2号

JAふじ伊豆御殿場営農経済センター
2025年（令和7年）4月20日発行

キュウリの栽培

～ファーマーズ御殿場では、8月中旬頃からキュウリの出荷が少なくなります。栽培計画により2回まきし長期出荷を目指しましょう！～

1. 栽培計画

条件	4月			5月			6月			7月			8月			9月			10月			備考
	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	上	中	下	
露地		○			◎																	
		1回目播種				2回目播種																

○：播種 ◎：移植 □：収穫

2. 特 性

温暖な気候を好み、低・高温のどちらにも強くありません。家庭菜園では、晩霜が降りなくなってから露地に定植するのが無難です。

①発芽適温：25～30℃ ②生育適温：25～28℃（夜温：13℃）

3. 播種と育苗

- ①128穴セルトレイに1粒ずつ播種する。
- ②保温マットを使用し27℃前後にセットすると2～3日で発芽する。

※保温マットがない方は、ハウス内でじっくり発芽させる。

- ③夜間は13℃前後を保てるようにする。
- ④鉢上げは本葉が少し見えた頃9cmポットに移植する。
- ⑤本葉が2～3枚時の若苗を定植する。（老化苗はやめる⇒収量が低下）

4. ほ場選定

- ・排水が良い場所⇒多くの水と酸素を欲しが。畝を高くすると良い。
- ・風通しが良い場所⇒風通しが悪いと多くの病気が出る。
- ・日当たりが良い場所⇒日光が大好き。

施肥表

（1a 当り）

	資材名	施肥量	備 考
堆 肥	牛ふん堆肥	200kg	1ヶ月前
土壌改良材	苦土石灰（粒）	10kg	2週間前
元 肥	ジシアン有機s806	12kg	1週間前

○定植苗



本葉2～3枚

5. マルチ栽培

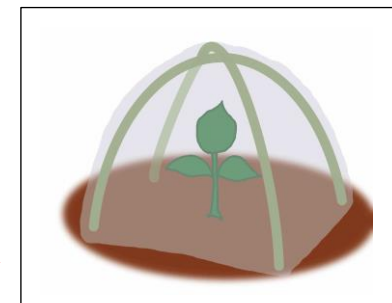
- ・地温の確保と雑草抑えのために黒マルチを張る。
- ・栽植密度：株間50～60cm、広い通路、キュウリアーチ支立て。

アーチ栽培をしましょう！！

6. 定植時の注意

- ・定植の前に苗、土壌に十分吸水させる。（植え傷みに対して弱い）
- ・晴天の暖かい日の午前中に植え付ける。
- ・定植後1週間は多めの灌水を行い、活着後は控える。

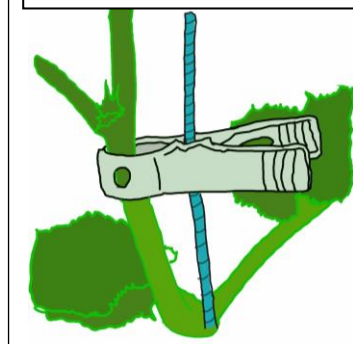
保温キャップなどで苗を囲うと初期生育がスムーズ



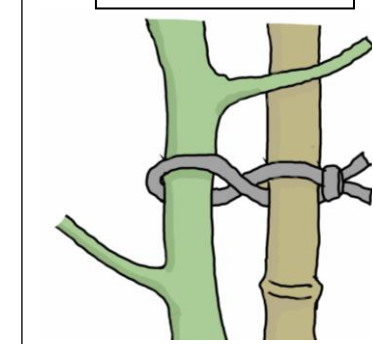
7. 誘引

- ・生育が早く、風による葉の傷みが懸念されるので早めに誘引する。

クリップによる誘引

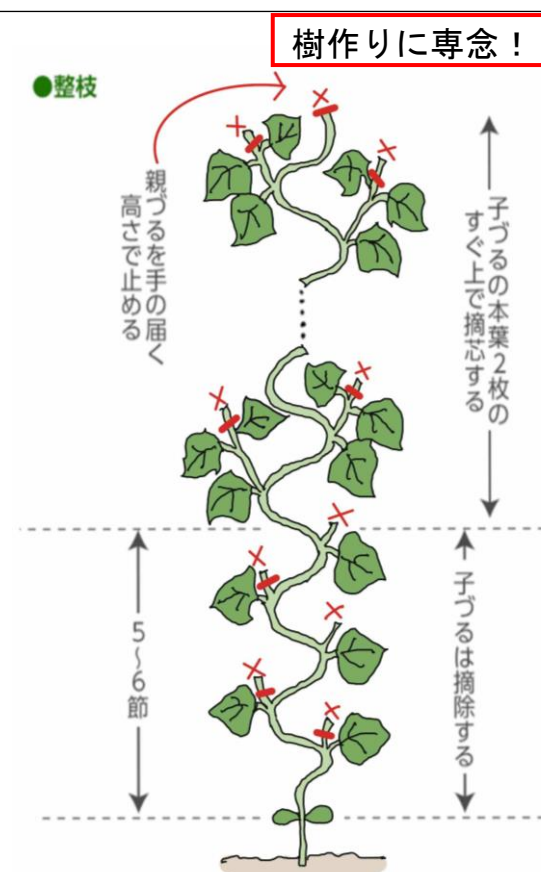


紐による誘引

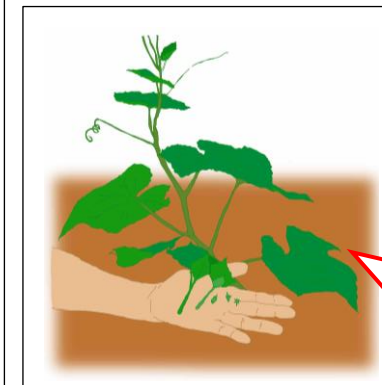


8. 整枝

樹作りに専念！



- ①5～6節（ひざ下ぐらい）までの子づるは摘除する。
- ②7節までの雌花や果実は摘除する。
⇒①、②で樹をしっかり作る事で収量が増える。
- ③子づるは本葉2枚を残して摘芯する。
- ④孫づるは中段以降は放任する。
※摘芯する場合は必ず数本は残す。
- ⑤親づるは収穫段数等を考慮して摘芯する。
※一般的に30節程度、支柱の高さの80程。



株元から5～6節までの雌花、側枝を早めに除去。この部分が茂りすぎると病害発生や収穫忘れが多くなる。

ジャガイモの管理

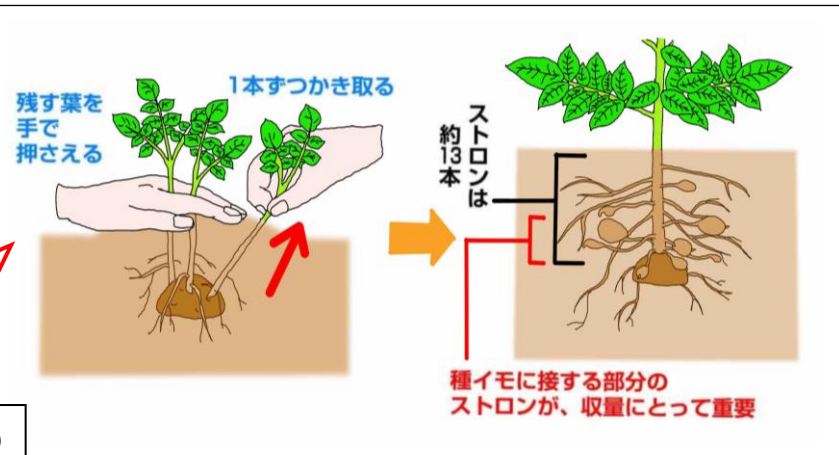
～1茎当たり約4～5個のイモがつく
⇒1株2～3茎、イモ数10～15個が目標～

1. 芽かきの効果

1株当たりの茎数2～3本で、売れ筋のL（110g以上）M（90g前後）サイズの粒が揃い、多収になる。（※茎数が少ない場合には、イモ数が少なく大小差が大きくなってしまう。茎数が5本以上となると小粒が多い。）

2. 作業方法

※芽かきは、出芽後1週間までに、種イモが持ち上がらないように手で押さえ、弱小の茎を根元から間引いて2～3本にする。



※ストロン＝匍匐茎（ほふくけい）

3. 土寄せの効果

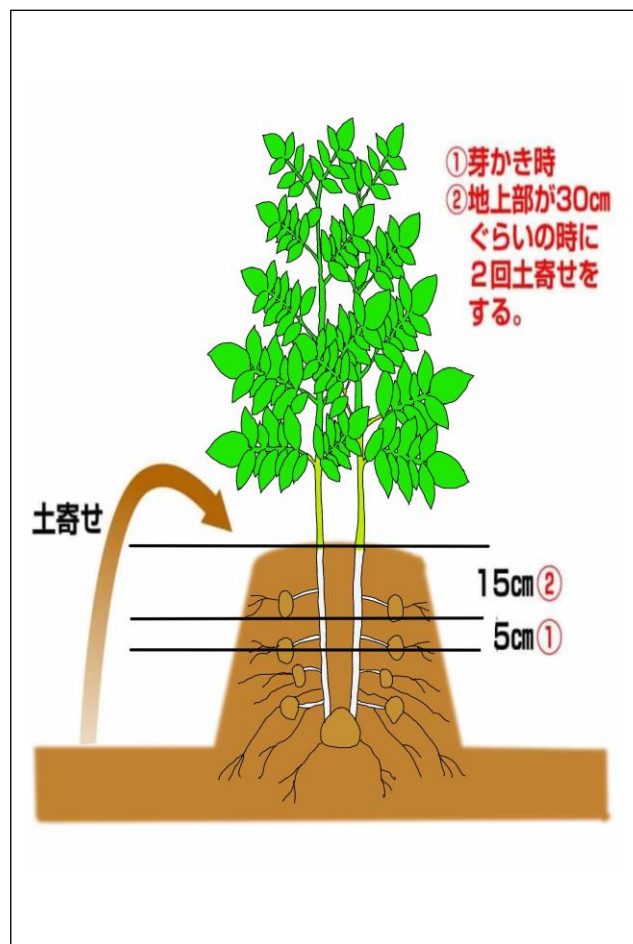
- ・イモ数の早期確保・肥大促進⇒17～22℃の地温、暗黒状態、適度な水分などがイモの肥大開始を促す。
- ・倒伏防止 ・イモの緑化防止
- ・根圏の拡大⇒根量が多くなり、増収する。

【中耕培土のポイント】

1回目の培土：出芽後10日目頃に中耕を兼ねて、半培土（軽く土寄せ）をする。芽を痛めないように注意する。

2回目の培土：出芽後20日頃に本培土を行う。1回目の培土から10日目、茎長が約30cmとなりイモが肥大を始める頃に、畝と畝の間の土を元の地表面から約15cmの深さに掘り、その土を反転して株際に寄せる。

⇒水はけ、通気性が大変良くなる。



令和7年度あぐりサポート事業のご案内

1. 事業目的

自然災害や生産資材の価格高騰などの様々な外的要因により営農継続が困難な状況下、JAふじ伊豆として持続可能な農業支援を行い、生産拡大・品質向上等に取り組む組合員の経営支援及び生産購買の利用促進を図ることを目的とする。

2. 事業対象者

富士伊豆農業協同組合管内居住の組合員

3. 受付期間

令和7年4月1日～予算上限に達し次第終了

4. 補助内容

No.	対策名	助成内容	助成率
1	農業用ハウス導入促進対策	農業用ハウスの新設・改修・付属設備（加温機等の加温に関わる付属施設）にかかる費用の一部を助成※①	費用の15% ※上限30万円
2	農業機械導入促進対策	農業機械の購入や農業機械用アタッチメントの購入にかかる費用の一部を助成※②	費用の10% ※上限15万円
3	有害鳥獣被害防止対策	電気柵・ワイヤーメッシュ等の設置にかかる費用の一部を助成※③	費用の20% ※上限5万円
4	新：高温障害対策	直射日光による温度上昇を抑制する遮光剤・遮光ネット・寒冷紗の購入にかかる費用の一部を助成 着衣による熱中症予防を目的とした空調服や空冷ベスト等の購入にかかる費用の一部を助成※④	費用の50% ※上限2万円 費用の50% ※上限1万円

※① 10万円以上の事業が対象

※② 30万円以上の事業が対象

※③ 1万円以上の事業が対象

5. 注意点

- ・対象事業費の税抜き価格にて助成金を計算します。
- ・ご利用いただく場合は、事前および事後に必要な書類を添えて申請手続きが必要です。
事前に最寄りの営農経済センターへお問い合わせください。